

## 1 大きな公共を担う活力ある地域社会づくり

(1)	豊かなコミュニティづくり	<取組所管> ・取組①～③：区
-----	--------------	--------------------

### □ 3年間の取組と成果の総括

・地域における「つながり」や「きずな」づくりに向けて、様々なイベントを企画・実施するとともに、ツイッターやフェイスブック等のSNSも活用して、特に若い世代やマンション住民などこれまで地域活動に関わりが薄かった人に情報提供や参加の呼びかけを行い、人と人が出会う機会の創出に取り組んだ。

・成果目標の達成には至らなかったものの、地域活動への新しい参加者が増えるなど、豊かなコミュニティづくりに向けた機運を高めることができた。

### □ 3年間の取組状況

※次ページ（各区の状況）を参照。

【取組の実施状況】取組①：A 24区、取組②：A 24区、取組③：A 24区

### □ 成果目標の達成状況

目 標	実 績	評価区分
住んでいる地域で、日頃から話をする相手が増えたと感じている区民の割合 平成26年度までに全区で60%以上	平成26年度 各区平均 30.0% (各区内訳) 10%台 2区 20%台 10区 30%台 9区 40%台 3区	②

### □ 課題と今後の方向性

※次ページ（各区の状況）を参照。

#### 【評価区分の凡例】

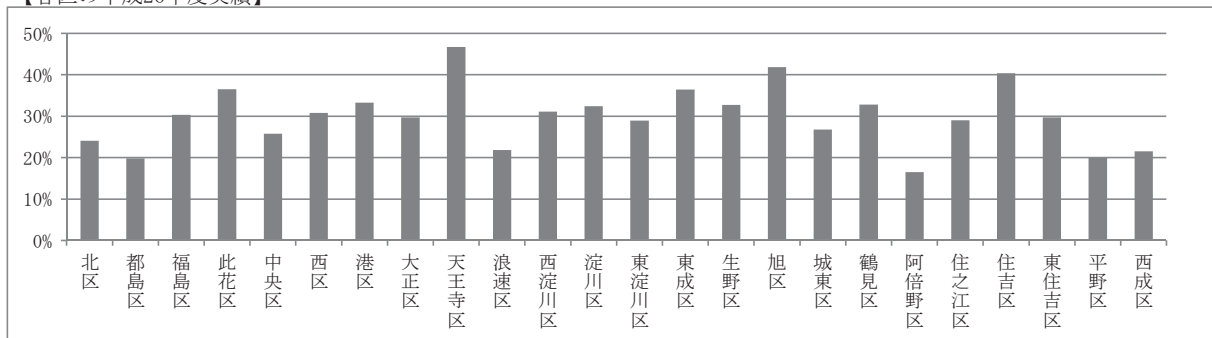
〔取組の実施状況〕 A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった  
〔成果目標の達成状況〕 ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった

1(1) 豊かなコミュニティづくり

(取組①②③)

【目標(A)】住んでいる地域で、日頃から話をする相手が増えたと感じている区民の割合  
平成26年度までに全区で60%以上

【各区の平成26年度実績】



	3年間の取組状況			成果目標の達成状況			課題と今後の方向性
	取組番号	取組内容	実施状況	26年度実績(B)	達成率(B/A)	評価区分	
北区	①	・広報紙「わがまち北区」やホームページ、フェイスブック等を活用し、「つながり」の大切さを啓発するとともに、地域活動への参加を呼びかけた。	A	24.1%	40.2%	②	・引き続き、広報紙をはじめ多様な媒体を活用し、あらゆる世代に対して地域情報の発信に取り組むことにより、地域活動への参加を促すと同時に、「まちづくり意見交換会」などを通じて、地域内のネットワークの活性化を支援する。
	②	・広報紙「わがまち北区」やホームページ、フェイスブック等で、各地域の活動状況を紹介し、盆踊りなどの地域イベントを中心に情報を発信した。また、「まちづくり塾」を開催し、広報のノウハウを提供した。	A				
	③	・「まちづくり意見交換会」や「まちづくり塾」などを通じて、地域内のネットワークが広がるよう支援した。	A				
都島区	①	・区民相互のつながりのため、企画・運営に区民等が参画する区民まつりを実施 ・新たな担い手の発掘のため、出展者について一部公募を実施	A	19.8%	33.0%	②	・区民まつりの新規参画者は増加したものの、企画・運営等の担い手拡大へとつながるまでには至っていない。 ・地域活動協議会は形成されたが、協議会自体の認知度が低い。 ・新規参画者の増加を図りながら、区民まつりの企画・運営の担い手拡大へとつながる仕組みを検討する。 ・地域活動協議会の組織力向上につながるよう積極的に情報発信を行い、各地域の特性に応じて活動支援を継続する。
	②	・区ホームページに地域活動協議会ページを開設、活動内容等を情報発信、コンテンツをリニューアル ・各地域の取組を広報誌に掲載 ・SNSを活用し、地域活動参加を促進 ・中間支援組織と連携し、ブログ講座を開催 ・中間支援組織と連携し、区役所庁舎内に地域活動協議会情報発信コーナーを設置し活動を周知	A				
	③	・中間支援組織と連携し、担い手拡大につながるような事業計画の策定について助言	A				

【実績】 区民(市民)、職員等の割合は、区民(市政)モニターアンケート、世論調査、職員アンケート等の結果に基づく。

【達成率】 実績値を目標値で除して算出。

【評価区分の凡例】

〔取組の実施状況〕 A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった

〔成果目標の達成状況〕 ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった

	3年間の取組状況			成果目標の達成状況			課題と今後の方向性
	取組番号	取組内容	実施状況	26年度実績(B)	達成率(B/A)	評価区分	
福島区	①	・大阪市中央卸売市場前港周辺等をにぎわい創出の拠点とし、水辺のにぎわいと水都復活を目的とした集客力の高いイベント（ごこばの朝市・ふくしま水辺フェス等）を開催した。その他、野田阪神駅前を中心とした野外音楽ステージやJR福島・野田駅前でのデザイン事業など、音楽をはじめとしたアートを楽しめるまちづくりを進めた。またうるおいとみどりのあるまちを実現するため、花とみどりのまちづくり事業により春植え秋植えの花の出荷及び小学校の種花事業（春植え・秋植え）を行った。また、市民活動団体が中心となった緑化活動を通じて、地域コミュニティの活性化を図る運動を支援した。	A	30.3%	50.5%	②	・ホームページや広報紙といった広報媒体を活用しコミュニティ活性化を目的としたイベントへの参加を呼びかけたり、当該イベントで「つながり」や「きずな」の大切さを啓発したりすることで、日頃から話をする相手が増えたと感じる区民の割合を増やそうと試みたが、思うようにポイントはのびていない。しかし、少しずつではあるが効果は出てきていると考えており、今後はそれぞれの取組をさらに充実することで成果目標に近づけるよう取り組む。
	②	・大阪市中央卸売市場前港周辺等をにぎわい創出の拠点とし、水辺のにぎわいと水都復活を目的とした集客力の高いイベント（ごこばの朝市・ふくしま水辺フェス等）を開催した。その他、野田阪神駅前を中心とした野外音楽ステージやJR福島・野田駅前でのデザイン事業など、音楽をはじめとしたアートを楽しめるまちづくりを進めた。 ・ホームページ、広報紙等さまざまな媒体を活用した各種イベント等の各地域活動の情報発信を行った。	A				
	③	・ホームページ、広報紙等さまざまな媒体を活用した各種イベント等の各地域活動の情報発信を行った。 ・年に複数回、区民モニターアンケートを実施した。	A				
此花区	①	・地域の団体と協働して、企画段階から住民ニーズを取り入れた住民主体の各種事業を実施するなど、区におけるコミュニティづくりを推進し、防災訓練や地域のイベントなどの機会を通じてあらゆる世代に「つながり」や「きずな」の大切さを啓発した。 ・「このはな地域見守りタイ」事業を通じて、多くの区民が高齢者や子育て世帯の見守りに参加できるよう事業の周知と支援を行った。	A	36.5%	60.8%	②	・地域活動への参加者や担い手が固定化しているため、「区民まつり」や「区民文化祭」などで、事業の企画実行委員会に公募委員を加え、新たに地域全体で取り組む催しやイベントを企画することにより、新しい参加者や担い手の拡大につなげ、より身近なコミュニティの活性化が図れるよう工夫する。
	②	・区民活動や協働事業の情報を収集し、その様子を撮影・編集した映像コンテンツを発信したほか、広報紙、ホームページへの掲載、報道機関への情報提供などあらゆる世代に対して事業への参加を呼びかけた。また、中間支援組織を活用し、イベントや活動の主催者に対し、多様な媒体を活用した情報発信などのノウハウ提供の支援を行った。	A				
	③	・地域のイベントや活動については、主催者等と協力して、運営スタッフ同士のつながりが広がるよう団体同士が協働で行う企画を実施した。 ・地域イベントで主催者等と協力して、参加者にさまざまなことをインタビューする「コノまちインタビュー」を実施し、効果測定を行った。	A				

【実績】 区民(市民)、職員等の割合は、区民(市政)モニターアンケート、世論調査、職員アンケート等の結果に基づく。

【達成率】 実績値を目標値で除して算出。

【評価区分の凡例】

〔取組の実施状況〕 A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった

〔成果目標の達成状況〕 ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった

	3年間の取組状況			成果目標の達成状況			課題と今後の方向性
	取組番号	取組内容	実施状況	26年度実績(B)	達成率(B/A)	評価区分	
中央区	①	・高層マンション特有の課題の解決に向けて、ラウンドテーブルや講習会等を開催した。 ・地域担当制等を活用し、「つながり」や「きずな」の大切さを啓発した。	A	25.8%	43.0%	②	・地域コミュニティ活動の促進を図るため、地域担当制等を活用して地域のさまざまな情報を収集・発信し、地域のイベントや活動への参加を呼びかけていく。
	②	・地域担当制等を活用し、地域のさまざまなイベントや活動に関する情報を収集し、区広報紙やツイッター等で参加を呼びかけた。 ・地域のまちづくりや自慢となる活動を区広報紙等で紹介した。 ・地域活動協議会の活動内容を、中間支援組織作成の「まちセンニュース」やフェイスブック等で紹介した。 ・高層マンション特有の課題の解決に向けたラウンドテーブル等を開催した。	A				
	③	・市の財政的支援などを受けて行われる地域のイベントや活動について、その効果を測るためのアンケートを実施した。	A				
西区	①	・高齢者、子ども、障がい者・児グループとの協働交流イベント「そよかぜまつり」(例年約1,500人参加)、子育て層の交流会「てをつなごう！」(例年約600人参加)、高齢者などの孤立化防止のための地域交流拠点「立ち寄り処」の運営支援など、あらゆる世代を対象とした出会いの場を設け、「つながり」「きずな」の大切さを啓発した。 ・マンションに居住する子育て層を対象に実施する子育てサロン「にしー広場」を通じて、マンション内のコミュニティづくりを支援するとともに、地域の民生委員・児童委員との「つながりづくり」を行った。 ・入居前からマンション事業者へ働きかけ、入居後の防災訓練や地域住民と交流を図る防災イベントを実施し、新築マンションのコミュニティづくりを支援することで、新築マンションへのアプローチ手法を確立した。 ・各小学校と連携した地域の防災訓練の実施を支援することで、若い世代への地域における「つながりづくり」を啓発した。 ・中学校下のPTAと共催して、「世代間交流」を目的とした講演会を開催し、「つながりづくり」を行った。 ・地域資源を活用した協働イベント「バラ祭」や「えほんpicnic」、西区の魅力発信事業「リバーサーカス」、「にし恋マルシェ」など人と人が出会いつながる機会を通して、地域住民やボランティアの「つながり」づくりを支援するとともに、参加者へ「つながり」の大切さを啓発した。	A	30.8%	51.3%	②	・西区で約9割を占めるマンション住民に対し、防災や子育てを切り口にコミュニティの重要性について啓発しており、重要性は認知されているもののマンション内のコミュニティ形成の動きまでにはつながっていない。そのため確立した新築マンションへのアプローチ手法を活用し、コミュニティづくりや地域活動への参加を促進する。
	②	・イベントや交流会などについては、広報紙やホームページ、フェイスブック、LINE等を活用し、広く参加を呼びかけた。また、協働企画している団体が自らのホームページなどでボランティア募集などを行った。 ・地域団体の地域活動やイベントの情報を、区のホームページで広報するとともに、地域担当職員や中間支援組織が、地域団体のフェイスブックでの情報発信を支援した。	A				
	③	・「バラ祭」や「えほんpicnic」では、協働企画しているグループや団体と意見交換を行いながら、子育て関係やつながりづくりのための新規プログラムを追加するなど工夫し、参加者数を増やした。また、準備及び当日ボランティアを募集するなどつながりが広がる工夫を行った。 ・イベントや交流会などの時には必ず参加者アンケートを実施している。	A				

【実績】 区民(市民)、職員等の割合は、区民(市政)モニターアンケート、世論調査、職員アンケート等の結果に基づく。

【達成率】 実績値を目標値で除して算出。

【評価区分の凡例】

〔取組の実施状況〕 A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった

〔成果目標の達成状況〕 ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった

	3年間の取組状況			成果目標の達成状況			課題と今後の方向性
	取組番号	取組内容	実施状況	26年度実績(B)	達成率(B/A)	評価区分	
港区	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティの大切さを伝えるため、区民を対象とした「港区まちづくりフォーラム」の開催や小学校区単位の説明会を実施した。</li> <li>・まちづくりセンターを活用し、地域活動協議会が地域住民に対し、その活動や組織運営、地域におけるつながりやきずなの大切さ等を積極的に啓発・広報することなどを支援した。</li> <li>・豊かなコミュニティづくりに向けて、文化やスポーツ、子育てなどの分野の各種イベントや講座を区民の参画のもとで企画・開催し、開催結果についてホームページなどを通じて情報発信した。</li> <li>・災害への備えや暮らしの支えあいにおける共助の重要性について啓発するため、防災フォーラムや地域福祉活動報告会を開催した。</li> <li>・港区のまちづくりの歴史について学ぶ子ども向け読本「港区たんけん手帳」を発行し小学生等に配布した。</li> </ul>	A	33.3%	55.5%	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃、地域活動やコミュニティに対して関心が低い区民にまでは、取組が浸透していないため、今後、広報紙以外の媒体についても活用し、より多くの区民に対して地域活動協議会の活動内容や予定等を周知できるよう支援していく。</li> </ul>
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所主催イベント及び地域団体等が行うイベント情報等をホームページ、フェイスブック、ツイッターなどさまざまな手法で発信・紹介した。</li> <li>・まちづくりセンターを活用し、地域活動協議会に対して、ホームページ、フェイスブック製作などを中心とした広報研修会を開催した。</li> <li>・その結果、全地域活動協議会が広報紙を発行し、複数の協議会でホームページやフェイスブックを用いた広報を行っている。</li> <li>・開催した各種イベントや講座の結果についてホームページなどを通じて情報発信した。</li> </ul>	A				
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港区で活動するさまざまな団体やグループ、区民の参画により、文化やスポーツ、子育てなどの分野の各種イベントや講座を企画・開催し、コミュニティの育成や活性化、活動の担い手のマッチングを促進した。</li> <li>・区役所が財政的支援を行うイベントは、担い手のつながり等が広がるように実行委員会方式で実施し、アンケート等の「効果測定」を実施・公表した。</li> </ul>	A				
大正区	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度の区政80周年記念イベントをはじめとして平成25年度からは水辺を活かしたイベントを区民と協働し、つながりを感じられるよう実施した。</li> </ul>	A	29.7%	49.5%	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントを通じてつながりができつつあるものの、一時的なイベントを通しての形成には限界があるという課題がある。</li> <li>・そのため、平成27年度以降については、恒常的なにぎわい創造拠点を整備し、そこに地域の方々を含めさまざまな人たちが集い、恒常的なつながりが持てるようにしていく。</li> </ul>
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記イベント等に関して、フェイスブックやツイッター等による告知を積極的に行い、多様な媒体を利用し、様々な世代に対する呼びかけを行った。</li> </ul>	A				
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記イベント実施に際しては、様々な地域団体への参画を呼びかけ、イベントを通して、今までつながりがなかった者同士のネットワークも生まれてきた。</li> </ul>	A				
天王寺区	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンション居住者を中心に、災害発生時における助け合い(共助)を切り口に、日常からのつながり合いの重要性を理解してもらうための説明会を開催した。</li> </ul>	A	46.7%	77.8%	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、防災をテーマとした地域の「つながり」「きずな」の大切さを伝えるとともに、様々な広報媒体を積極的に活用し、地域活動への参加を促進する。</li> </ul>
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動に参加していない住民や区外からの転入者に対し、ツイッター、フェイスブック、区広報紙をはじめ様々な媒体を活用し、活動への参加の呼びかけを行った。</li> </ul>	A				
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の財政的支援を受けて行われるイベント・活動については、その効果(地域住民同士のつながりの拡大)を測るためのアンケート調査等を実施した。</li> </ul>	A				

【実績】 区民(市民)、職員等の割合は、区民(市政)モニターアンケート、世論調査、職員アンケート等の結果に基づく。

【達成率】 実績値を目標値で除して算出。

【評価区分の凡例】

【取組の実施状況】 A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった

【成果目標の達成状況】 ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった

	3年間の取組状況			成果目標の達成状況			課題と今後の方向性
	取組番号	取組内容	実施状況	26年度実績(B)	達成率(B/A)	評価区分	
浪速区	①	・区内中学校において中学生が地域住民・防災リーダーとともに訓練を体験する中で、日頃のつながりの大切さについて意識啓発を図った。	A	21.8%	36.3%	②	・引き続き中学校をはじめ小学校区単位での避難所運営開設訓練においても、あらゆる世代とのつながりをめざして訓練を実施するほか、地域活動の情報発信も強化する。
	②	・ホームページにおいて地域活動の情報発信を行うとともに、区広報紙で地域行事を紹介。 ・各地域活動協議会による「地域だより」の発行、ブログの製作支援を行った。	A				
	③	・地域活動協議会の会議や、避難所開設運営訓練のワークショップなどを通じて、活動の担い手の広がりを図り、アンケートを実施した。	A				
西淀川区	①	・世代間の「きずな」や「つながり」の大切さを再確認できるための親子ミニマラソン大会&駅伝大会を実施した。また、地域コミュニティのため、地域の人たちで構成する実行委員会により小学校校庭の芝生化及び運営を実施した。	A	31.1%	51.8%	②	・さまざまなイベントなどを通して地域コミュニティの促進は一定進んでいる。今後、地域活動協議会がより自主的に活動できるよう、中間支援組織と連携しながら地域活動協議会の支援を進め、地域コミュニティの活性化を強化する。
	②	・中間支援組織の支援のもと、地域活動協議会ごとのホームページ(フェイスブック)の開設を進め、地域ごとの活動の広報に取り組んでいる。	A				
	③	・商店街にぎわい再生イベントや、ものづくりまつりなどを開催し、参加者同士の交流を深めるよう取り組んだ。	A				
淀川区	①	・地域住民が主体となる小学校の校庭の芝生化(3校)のほか、広報誌や区役所ホームページ・フェイスブック、講座開催時などさまざまな機会を活用し、地域活動情報の発信と「つながり」や「きずな」の大切さを啓発した。	A	32.4%	54.0%	②	・若い世代やマンション住民が地域活動に興味をもてるような工夫が必要である。 ・フェイスブック等のSNSやICTをさらに活用し、子どもや保護者世代を対象とした地域活動やマンション住民も関心の大きい防災関係の地域情報発信と参加促進を行うことで、若い世代やマンション住民に「つながり」や「きずな」の大切さを実感してもらおう。 ・地域活動が地域住民同士のつながりを促進する内容となるよう、中間支援組織と連携して支援する。
	②	・区役所ホームページやツイッター、フェイスブックなど、SNSを活用して特に若い世代に向けた地域活動情報の発信を行った。中間支援組織フェイスブックや12地域で運用されている地域活動協議会フェイスブックからの情報発信を年間約700回実施した。	A				
	③	・イベントや活動の実施に際して、アンケートや従事者同士の意見交換会の実施を通じて、事業効果測定や効果的な事業実施に向けた改善について検討するよう、中間支援組織と連携して支援した。	A				
東淀川区	①	・地域活動協議会の自主的な形成を促進し、地域活動協議会を中心とした地域による自主的な取組への支援を行った。また、命のペットボトル(救急カプセル)事業や要介護者の見守りネットワーク事業、生活困窮者自立支援事業により地域に孤立しがちな高齢者や要介護者、生活困窮者の地域・団体へのつながりを強化する取組を行っている。またえほんの読み聞かせ事業や4～5歳児の確認事業、健康づくり支援事業などにより、地域のつながりを深める事業を進めている。	A	28.9%	48.2%	②	・地域の「つながり」や「きずな」を必要としない人々の参加も促していくため、様々な機会を利用した他方面への働きかけが必要である。 ・地域活動協議会を中心とした地域活動情報を広く発信することで、必要な情報が得られ、地域活動への参画につながる土壌づくりを支援する。高齢者や要介護者への見守り対策等を進めるほか、「わがまちナイススポット事業」など地域の資源を活用し、区への愛着を深めるとともに、地域のつながり、きずなの再構築を図る。
	②	・区民がまちづくり活動に関心のあるテーマを募集し、活動を実施している地域団体やNPO、企業等に関する情報を集約、区広報紙やホームページ、ツイッターなど様々な媒体を活用して情報発信を行い、幅広い区民に地域活動への参加を呼び掛けている。	A				
	③	・地域公共人材の育成にかかる各種研修を、大学、NPOなどと連携して数多く開催することで、必要な情報が得られ、また地域活動への参画につながる土壌づくりを支援している。	A				

【実績】 区民(市民)、職員等の割合は、区民(市政)モニターアンケート、世論調査、職員アンケート等の結果に基づく。

【達成率】 実績値を目標値で除して算出。

【評価区分の凡例】

〔取組の実施状況〕 A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった

〔成果目標の達成状況〕 ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった

	3年間の取組状況			成果目標の達成状況			課題と今後の方向性
	取組番号	取組内容	実施状況	26年度実績(B)	達成率(B/A)	評価区分	
東成区	①	・中間支援組織を活用し、地域の特性に合った「つながり」や「きずな」を育む場を設けるため、地域活動協議会などの地域活動の運営を支援した。 ・「おまもりネット事業」を活用した高齢者・障がい者等支援セーフティネット構築事業を通じて、高齢者・障がい者等と地域をつなぎ、見守り活動等を行うことを通じて、「つながり」の大切さの啓蒙などに取り組んだ。	A	36.4%	60.7%	②	・若い世代やマンション住民など幅広い世代の区民に対し、地域活動協議会や地域福祉に関する取組やイベントなどの情報発信を強化し、区民の地域活動への参画促進に向けた機運の醸成に取り組んでいく。
	②	・地域住民が主体となり、若い世代をはじめとした地域活動に関わりの薄かった層に対し、ブログ等のITツールを活用して地域情報を発信する取組の支援を行った。 ・広報紙やホームページ、ツイッターなどを活用し、各種地域活動や地域福祉事業に関する情報発信や参加の呼びかけに取り組んだ。	A				
	③	・種から育てる花づくり事業を通じて、ボランティア同士のつながりを醸成することができた。 ・区地域福祉推進支援事業として、様々な分野で活動している団体・事業者・社会福祉施設等の連携強化を促進するため、協働で地域福祉力向上ワークショップの開催等に取り組み、参加者に対するアンケート調査を行った。	A				
生野区	①	・災害時における要援護者避難支援のため、地域・福祉事業所・行政が協力し、避難支援システム「きずなネット」を構築し、勉強会・通信稼働訓練・資器材配備等を実施。 ・行政の画一的な制度だけでは対応しきれない地域福祉の諸課題に対して、各地域の実情を把握する福祉コーディネーターが、真に支援を必要とする人と地域におけるボランティアのマッチングを支援する。	A	32.7%	54.5%	②	・支援が必要にも関わらず地域での関係が希薄であるがために、地域の支援につながっていない方や地域でボランティア活動をしたい方の発掘が必要と思われる。さらに今後は要支援者との単発的なマッチングだけでなく、要支援者を地域の見守り支援の輪につなげる取組に広げていく必要がある。 ・現在の取組だけでは地域情報が区民に十分に伝わっておらず、特にアクセスが少ない若年層への発信を考える必要があるため、地域魅力発信のためのスマートフォンアプリ「アップdeいくの」を活用し、若年層への周知につなげる。 ・福祉事業所や地域住民が自ら考えながらより主体的に地域自主防災活動を行えるよう、ワークショップやその他の方法を取り入れる。 ・以上の取組により、今後ともあらゆる世代に対して、地域における「つながり」や「きずな」の大切さを伝え、機会を作っていく。
	②	・さまざまな催しを通じてつながり・きずなの大切さをアピールするため、イベント情報の収集や区ホームページ・ツイッターにより地域情報を発信し、地域活動協議会のブログ開設やブロック広報紙の発行について、新たな地域コミュニティ支援事業として支援。	A				
	③	・地域課題の解決と担い手育成を目的としたワークショップを開催。 ・新たな地域コミュニティ支援事業として、次世代型地域イベント懇話会や地域まちづくり勉強会の開催、地域活動協議会のブロック協働事業の事業実施を支援。 ・生野まつりなど地域団体・企業等と協働した業務委託としてコミュニティ育成事業を実施。	A				

【実績】 区民(市民)、職員等の割合は、区民(市政)モニターアンケート、世論調査、職員アンケート等の結果に基づく。

【達成率】 実績値を目標値で除して算出。

【評価区分の凡例】

〔取組の実施状況〕 A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった

〔成果目標の達成状況〕 ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった

	3年間の取組状況			成果目標の達成状況			課題と今後の方向性
	取組番号	取組内容	実施状況	26年度実績(B)	達成率(B/A)	評価区分	
旭区	①	・福祉や防災など、さまざまな事業、広報活動を通じて、「つながり」や「きずな」の大切さを啓発	A	41.8%	69.7%	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もさまざまな機会を捉え、区民が交流する場の提供及び情報発信を行っていく。特に若い世代が参加しやすい事業の実施が課題であり、事業の見直し、ツイッター等多様な媒体を活用した情報発信を行い、地域活動への参画を呼びかけていく。</li> <li>・福祉や防災の取組を通じて地域の結びつきを強めるように取り組む。</li> </ul>
	②	・区ホームページや区ツイッター、フェイスブック、広報紙への地域活動協議会活動情報の掲載 ・地域活動協議会ホームページの立上げ支援	A				
	③	・地域での事業実施については、実行委員会形式でのイベント開催など主催者・参加者・運営スタッフとの連携強化を図るとともに、アンケートを実施し、効果測定を行った。	A				
城東区	①	・様々な世代が参加する各種イベントにおいて、啓発活動を行った。	A	26.8%	44.7%	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動協議会の情報発信や生涯学習など、小学校各校下でのつながりが基礎となるまちづくりを支援し、地域のさまざまな活動主体が互いに連携した豊かなコミュニティづくりの推進を図る。</li> </ul>
	②	・各種イベント情報について、各課や地域担当により、ツイッターを利用した積極的な情報発信を行った。	A				
	③	・各種団体間で情報提供・交換、交流が行われるよう支援し、人材交流が深まり、新たな担い手も生まれてきた。 ・さまざまな世代が参加する各種イベントにおいて、効果測定のための参加者アンケートを実施した。	A				
鶴見区	①	・各地域でのワークショップや地活協フォーラムの開催など様々な機会を通じて地域活動への関心や参画を促してきた。 ・活動事例の発信など随時行ってきた。	A	32.8%	54.7%	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い層の人たちの地域活動への関心や参画が進んでいない。また、地域格差がある。そのため、各地域の広報力を強化し、情報発信力を高めていくとともに、引き続き、ワークショップやフォーラム、防犯一斉行動などを実施しコミュニティを育成していく。</li> </ul>
	②	・地域活動状況等を随時ホームページやフェイスブックで情報発信している。 ・情報発信力の向上に向けた講習会・勉強会などを開催した。	A				
	③	・防犯一斉行動（区民一斉パトロール）の実施により、地域住民が防犯情報等の共有を図ることで地域のつながりを強めている。 ・地域の「つながり」「きずな」について区民アンケートで把握に努めた。	A				

【実績】 区民(市民)、職員等の割合は、区民(市政)モニターアンケート、世論調査、職員アンケート等の結果に基づく。

【達成率】 実績値を目標値で除して算出。

【評価区分の凡例】

〔取組の実施状況〕 A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった

〔成果目標の達成状況〕 ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった



	3年間の取組状況			成果目標の達成状況			課題と今後の方向性
	取組番号	取組内容	実施状況	26年度実績(B)	達成率(B/A)	評価区分	
阿倍野区	①	・災害時にもっとも必要とされる自助・共助のコミュニティの向上を図るため、自主防災組織等が実施するまちなか防災訓練を通じて、あらゆる世代に対し、「つながり」や「きずな」の大切さの啓発を実施した。	A	16.5%	27.5%	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなか防災訓練、避難所開設運営訓練や若年層に対しての防災研修、防災訓練、防災イベントでの防災啓発を通じて「自助」「共助」の大切さや顔が見えるコミュニティの向上が図れたことは有効であったと考える。</li> <li>・しかしながら各取組に参加していない区民には、「つながり」や「きずな」の大切さの啓発が効果的に実施できていない。</li> <li>・今後、継続してあらゆる世代に対して防災をキーワードに「つながり」や「きずな」の大切さの啓発を行う。</li> <li>・広報サポート等を中間支援組織を活用して実施した。</li> <li>・しかしながら地域活動を知らない地域住民が多く存在している。</li> <li>・今後は、地域活動に関心がありながら関わりの薄かった人たちに情報発信できるよう、さらに広報活動のサポートを行う。</li> <li>・各種イベントに多くの区民等に参加いただくことにより、地域活動を知るきっかけになったと考える。</li> <li>・しかしながら参加者や運営スタッフ同士の交流にはつながっていない。</li> <li>・今後も継続して実施することにより、より一層のコミュニティの向上を図る。</li> </ul>
	②	・中間支援組織を活用し、情報発信等広報サポート講座を実施した。	A				
	③	・地域コミュニティづくりのための、あべのカーニバル・たこあげ大会・区民体育祭が実施され、各地域で夏まつりなどが開催された。また、これらイベントの効果を測るため参加者にアンケートを行った。	A				

【実績】 区民(市民)、職員等の割合は、区民(市政)モニターアンケート、世論調査、職員アンケート等の結果に基づく。

【達成率】 実績値を目標値で除して算出。

【評価区分の凡例】

[取組の実施状況] A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった

[成果目標の達成状況] ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった

	3年間の取組状況			成果目標の達成状況			課題と今後の方向性
	取組番号	取組内容	実施状況	26年度実績(B)	達成率(B/A)	評価区分	
住之江区	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民が主体となって運営するラウンドテーブル開催を提案し、民が主体となった運営を区役所がサポートすることで、多くのまちづくり、まちおこし事業が展開できたとともに、ラウンドテーブル参加者の有志によるNPO法人が設立された。</li> <li>・「つながり」や「きずな」の大切さを啓発し、地域活動に関心のある人たち、地域で活動している人たちが意見交換や話し合いなど交流する場として、市民交流スペース「きずなステーション」を開設・運用している。</li> <li>・新たな地域福祉計画「ふだんのくらししあわせプラン」を策定した。</li> <li>・地域福祉に関わる支援者より実行委員会を立ち上げ、関係機関の連携や地域住民の支えあいのしくみを構築していくことをめざし、「ちいき愛発信シンポジウム」を年1回開催した。</li> </ul>	A	29.0%	48.3%	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代やマンション住民など、これまで地域活動への関わりが薄かった人たちによる地域活動やまちおこし事業への参画が必要となっている。また、多様なつながりの拠点施設である「きずなステーション」の活性化を通じ、地域で支えあうまちづくりの啓発をどのように推進するかが課題である。</li> <li>・今後、校区等地域を単位として、多様な活動主体が、それぞれの特性を発揮し、様々な地域課題を自分たちの手で解決できる自律的な地域運営が行われ、住民が「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」を実感できるようなまちづくりを推進する。</li> </ul>
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも参加でき、区民の間で話題となる地域のイベント、まちの話題やより身近な地域情報などをツイッター、フェイスブックやホームページ等を使って発信するとともに、イベント動画の配信を行っている。</li> <li>・大阪市の広報板に区長からのメッセージポスターを毎月掲示し、地域のイベント等について情報発信している。</li> <li>・ホームページ「区長日記」において、区長自らがさまざまな地域団体や活動主体を訪れ、地域におけるつながりや活動内容を紹介している。</li> </ul>	A				
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間支援組織と連携し、地域課題解決に向けた「地域の未来像を語り合う懇談会」を開催することで、企業やNPO、学校などと連携した新たな地域イベントの開催につながることができた。</li> <li>・地域、企業、NPOが連携したイベント開催後は、区役所やまちづくりセンターも交えた「振り返りの会」を開催し、次回開催に向けた課題の共有を行った。</li> </ul>	A				
住吉区	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『地域編集塾』やクラウドファンディング説明会を開催することで、ボランティア・NPOとの交流の場となり、また、コラボレーション企画を検討するなど、お互いの活動を知る機会を設けた。</li> </ul>	A	40.4%	67.3%	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も『地域編集塾』の手法を用い、1地域でも『地域編集塾』（4回構成）を完了し、先行事例を示すことが、他の地域活動協議会においても刺激になると考える。今後も『地域編集塾』を進めながら協働を喚起していくことで、課題解決につなげていく必要がある。地域の方向性や課題の共有・共感が大切であるため『地域編集塾』開催を継続していくことが重要である。</li> <li>・クラウドファンディング説明会により幅広いステークホルダーの掘り起こしのきっかけになったが、一層地域活動協議会内での十分な議論・検討が行われるよう喚起するとともに、会計担当者のみではなく、従事者（活動者）を対象とした交流の場づくりや情報発信を継続的に実施していく必要がある。</li> </ul>
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント・事業については、ツイッターを用い情報発信を行い、また、地域活動協議会 広報については、ポスターを作成し提供。区広報紙に毎月、地域ごとの特色を生かした「地域活動協議会レポート」を寄稿し、地域活動協議会認知度アップに努めた。</li> </ul>	A				
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域担当職員が各地域で開催するイベントや会議に出向き、イベントについては定型の事業効果チェックリストでPDCAを検証し、会議については情報共有できるように定型の活動報告票を作成した。</li> </ul>	A				

【実績】 区民(市民)、職員等の割合は、区民(市政)モニターアンケート、世論調査、職員アンケート等の結果に基づく。

【達成率】 実績値を目標値で除して算出。

【評価区分の凡例】

〔取組の実施状況〕 A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった

〔成果目標の達成状況〕 ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった

	3年間の取組状況		成果目標の達成状況			課題と今後の方向性	
	取組番号	取組内容	実施状況	26年度実績(B)	達成率(B/A)		評価区分
東住吉区	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民フェスティバルをはじめ、みんなの健康展や食育フェスタ、子育てOHえんフェスタ、ファミリー運動会等のイベントの開催を通じて、あらゆる世代に対する「つながり」や「きずな」の大切さを啓発した。</li> <li>・平成26年度から、区民のボランティアであるはつらつ脳活性化元氣アップリーダーが地域住民を対象に、生活習慣病や認知症予防をテーマにはつらつ脳活性化元氣アップ講座を開催した。</li> <li>・平成25年度は、「いい夫婦の日」（11月22日）に婚姻届出の為に来庁されたカップルを対象に、区の Mascot キャラクターである「なっぴー」などを飾り付けた写真撮影用ブースを特設し、「夫婦の記念日の思い出づくりのお手伝い」を行い、平成26年度は、七夕の日に待合スペースに笹飾りを設置し、来庁者に自由に短冊を飾りつけていただくことにより、待ち時間等に知らない人同士でもふれあい、つながっていただくことができるような取組をした。</li> </ul>	A	29.7%	49.5%	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、区民フェスティバルでの一般の公募参加者を増やすなど、イベントの企画・運営をより一層区民主体で進め、区民同士の交流が促進される取組を進める。</li> <li>・はつらつ脳活性化元氣アップ講座は、14小学校中11地域での開催にとどまったため、全小学校区で住民主体の講座が展開できるようにする。</li> <li>・区内の子育て支援事業を実施している施設・団体・関係機関が集う場を「子育て支援連絡会」とし、より一層、地域の子育てネットワークづくりの強化と事業の推進を図る。</li> <li>・イベント等の情報発信について、情報が届いていない、との意見があり、現在区が有する広報媒体のすみわけを図るとともに、よりターゲットを絞った区民等を対象にした新たな情報伝達方法を検討する。</li> </ul>
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域担当職員が地域に赴き、地域でのさまざまなイベントに関する情報を収集し、区ホームページや区広報紙、区ツイッターを活用し、各地域の行事など幅広い世代の区民同士が交流するイベントを中心に発信し、参加を呼びかけたほか、当日の参加状況やイベントの様子等を随時、発信した。</li> <li>・区内の子育て支援事業を実施している施設・団体・関係機関とともに、区内の子育て世代に情報をタイムリーに伝えられるよう、毎月「子育てOHえん情報誌」を作成、配布している。</li> </ul>	A				
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民フェスティバルに、地域団体や一般参加等の区民が参画する実行委員会を立ち上げ、区民主体の事業として実施した。</li> <li>・地域活動協議会主催の地域活動をはじめ、子育てOHえんフェスタやファミリー運動会などイベント開催時に、効果測定のためのアンケートを実施している。</li> </ul>	A				
平野区	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画から運営まで区民が主体的に取り組む「区民まつり」や大人から子どもまでの多世代交流を促進する「防災フェスティバル」、青少年指導委員や青少年福祉委員等が企画する「雪まつり」など、企画段階から住民参加型のイベントを通じて、あらゆる世代の「つながり」や「きずな」づくりを進めた。</li> <li>・区広報紙やホームページに各地域活動協議会の活動を掲載するなど、地域活動情報を積極的に発信し、地域住民同士の「つながり」や「きずな」の大切さを啓発した。</li> </ul>	A	20.0%	33.3%	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民自らが主体性を持って取り組む様々な事業の実施や地域活動協議会の活動を多様な媒体により広報することなどにより、「つながり」や「きずな」の大切さについて啓発してきたが、十分行きわたっていない面がある。引き続き、地域活動に関心の低い若い世代やマンション住民などを対象に啓発が必要である。住民自らが広報啓発のみならず、地域活動に関心をもって参加することで「つながり」等を築いてもらうために、平野区の重点施策である「若い世代によるチャレンジを支援する事業」により、PTA等若い世代が企画・運営するイベント等の支援を行うほか、あらゆる世代に向け地域活動の促進につながる情報発信に取り組んでいく。</li> </ul>
	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所主催のイベントに加え、地域団体等が開催するイベント等についても、ホームページや区広報板、ツイッター等の多様な媒体を活用して参加を呼びかけたほか、地域活動協議会を対象としたホームページ開設やブログ講座を開催するなど地域情報発信に関するノウハウを提供した。</li> </ul>	A				
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動協議会が主催する活動について、参加者同士、運営スタッフと参加者、運営スタッフ同士のつながりが広がるよう多様な媒体を活用して情報発信を行い、参加者・運営スタッフへ活動の効果を知るためのアンケートを実施した。</li> </ul>	A				

【実績】 区民(市民)、職員等の割合は、区民(市政)モニターアンケート、世論調査、職員アンケート等の結果に基づく。

【達成率】 実績値を目標値で除して算出。

【評価区分の凡例】

【取組の実施状況】 A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった

【成果目標の達成状況】 ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった

	3年間の取組状況			成果目標の達成状況			課題と今後の方向性
	取組番号	取組内容	実施状況	26年度実績(B)	達成率(B/A)	評価区分	
西成区	①	・生涯学習ルーム事業における学習講座や生涯学習フェスティバルなど、さまざまな機会を通じて、あらゆる世代に対し、「つながり」や「きずな」の大切さを啓発するとともに、地域の知り合いを増やす機会を提供した。	A	21.5%	35.8%	②	・さまざまな機会を通じて、あらゆる世代に対し「つながり」や「きずな」の大切さを啓発するとともに、地域の知り合いを増やす機会を提供する。また、地域の情報を収集し、あらゆる世代に対してホームページやフェイスブック等を効果的に活用し発信を強化していく。
	②	・区において、つながりづくりに向けたさまざまなイベントや活動に関する情報を収集し、若い世代やマンション住民をはじめあらゆる世代に対して、フェイスブックやツイッター等のSNSなども含めた多様な媒体を活用して発信した。	A				
	③	・生涯学習フェスティバルにおいて、運営スタッフ同士のつながりが広がるようさまざまな工夫をこらすとともに、その効果を測るためのアンケート等を実施した。	A				

【実績】 区民(市民)、職員等の割合は、区民(市政)モニターアンケート、世論調査、職員アンケート等の結果に基づく。

【達成率】 実績値を目標値で除して算出。

【評価区分の凡例】

〔取組の実施状況〕 A：実施できた B：一部に実施できない取組があった C：実施できなかった

〔成果目標の達成状況〕 ①：成果目標を概ね達成できた ②：成果目標を達成できなかった